

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 4年 6月 15日

静岡県知事
川勝 平太 殿

提出者
住所 静岡県富士宮市小泉字笠井田350
氏名 太洋紙業株式会社
代表取締役社長 渡邊 和裕
電話番号 0544-27-3166

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	太洋紙業株式会社
事業場の所在地	静岡県富士宮市小泉字笠井田350
計画期間	令和 4年 4月 1日～令和 5年 3月31日

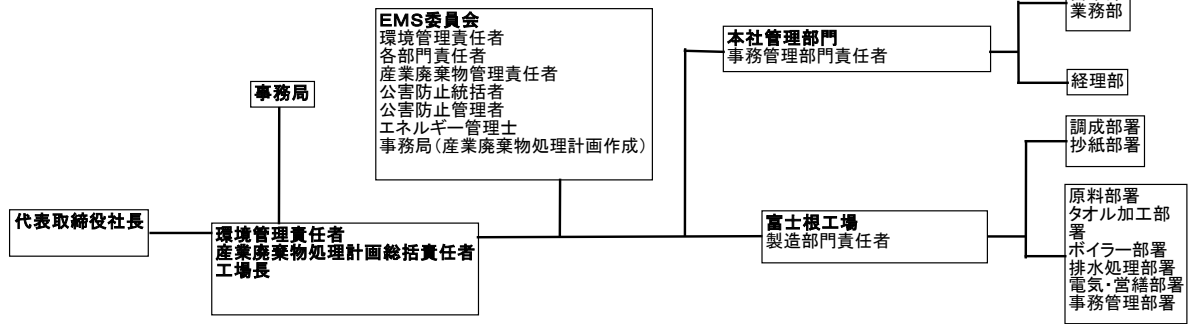
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	パルプ・紙・紙加工品製造業
②事業の規模	製造品出荷額 約40億円
③従業員数	78人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph TD A[排水処理設備] --> B[ペーパーズラッジ] C[調成設備] --> D[廃プラスチック] B --> E[運搬受諾者] D --> E E --> F[中間処理施設 (乾燥・圧縮)] E --> G[中間処理施設 (焼却・乾燥)] F --> H[再生利用 (製鉄所に納入等)] G --> H E --> I[中間処理施設 (圧縮・梱包)] E --> J[中間処理施設 (破砕)] I --> K[発電設備 (燃料)] J --> L[安定型最終処分場 (埋立)] </pre>

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) (環境マネジメントシステム組織図で行う)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和3年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	排出量	脱水前 15292 t 脱水後 7951.76 t	274.388 t
	産業廃棄物の種類	木くず	管理型混合廃棄物
	排出量	12.51 t	12.48 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	蛍光灯
	排出量	1.9 t	0.053 t
	産業廃棄物の種類	ガラスくず	乾電池
排出量	0.022 t	0.016 t	
(これまでに実施した取組) ①汚泥脱水機のメンテナンス ②木製パレットの補修 ③ごみの細分化分別			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	排出量	脱水前 15000 t 脱水後 7600 t	250 t
	産業廃棄物の種類	木くず	管理型混合廃棄物
	排出量	10 t	10 t
(今後実施する予定の取組) ①良質な古紙原料を積極的に購入する。②脱水機のメンテナンス ③再生利用の推進。④産業廃棄物の細分化の徹底。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ①原材料(古紙)への異物混入がないように、古紙業者に注意喚起を実施 ②産業廃棄物の種類ごとに分別をしている。 ③社内作業者の発生ごみ分別の徹底。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 産業廃棄物の種類ごと細分別し、再生利用できる廃棄物と再生利用できない廃棄物に分ける。また発生源の抑制・注意喚起や設備の予防保全に努めていきます。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ ー 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(これまでに実施した取組) ――		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ー	ー
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	(今後実施する予定の取組) ――		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ー
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	7340.24 t	ー t
(これまでに実施した取組) ①毎年8月に凝集沈殿層の内部清掃を実施 ②脱水機（スクリュープレス）のメンテナンスの実施			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ー
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	ー t	ー t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	7300 t	ー t
(今後実施する予定の取組) ①7月に脱水機（スクリュープレス）スクリュール部のクリアランス調整 ②脱水機前濃縮ホッパー薬品洗浄			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（—年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	全処理委託量	脱水前15292 t 脱水後7951.76 t	274.388 t
	産業廃棄物の種類	木くず	管理型混合廃棄物
	全処理委託量	12.51 t	12.48 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	蛍光灯
	全処理委託量	1.9 t	0.053 t
	産業廃棄物の種類	ガラスくず	乾電池
	全処理委託量	0.022 t	0.016 t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	汚泥	金属くず
		7662.68 t 有価物量：289.08 t	1.9 t
		木くず	ガラスくず
		12.51 t	0.022 t
	認定熱回収業者への処理委託量	蛍光灯	乾電池
		0.053 t	0.016 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t	
(これまでに実施した取組)			
①中間処理業者（汚泥）が再生利用を図っている。			
②汚泥（ペーパーラッジ）の含水率を下げる為に、定期的に脱水機スクリー部クリアランス調整を実施し、蒸気を使用して脱水を良くしている。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック
	全処理委託量	脱水前 1 5 0 0 0 t 脱水後 7 6 0 0 t	2 5 0 t
	産業廃棄物の種類	木くず	管理型混合廃棄物
	全処理委託量	1 0 t	1 0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	汚泥	廃プラスチック
		脱水前 1 5 0 0 0 t 脱水後 7 6 0 0 t	2 5 0 t
		木くず	—
		1 0 t	—
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ①古紙業者に禁忌品及び異物混入防止の注意喚起をする。 ②脱水機(スクリーンプレス)スクリーン部クリアランス調整。 ③産業廃棄物の細分化を徹底して、リサイクル利用に貢献する。 ④廃プラスチックの再利用(固形燃料等)できるか検討する。		
	※事務処理欄		